

成安寺、福田馬頭観音(滑川町)







滑川町指定
有形文化財

けんちょういたいしとうば
建長板石塔婆

指定 昭和五十二年三月三十一日
所在 滑川町大字福田 成安寺
時代 鎌倉時代

板石塔婆は、「板碑」^{いたがひ}「青石塔婆」^{あおいしとうば}などと呼ばれ、十三世紀初頭から十六世紀にかけて作られた石造遺物です。県内では長瀬町や小川町で産出される緑泥石片岩^{りよくでいせきへんがん}（俗に鉄平石^{てつぺい}と呼ばれる）を用い、板状に加工して様々な信仰内容を刻みこんだものです。

この板石塔婆は初期の重厚なもので建長三年銘（一二五一年）を有し、阿弥陀三尊の種子^{しゅじ}を葉研彫^{やげんぼり}した通例の形態で、町内最古のものです。

平成十六年三月

滑川町教育委員会



香川文化財
香川文化財
建長板石塔婆

建長板石塔婆
建長板石塔婆は、建長寺の境内にあり、建長寺の歴史を伝える重要な文化財である。この塔婆は、建長寺の創建者である建長親朝の墓所として建てられたとされている。塔婆の表面には、建長寺の歴史や建長親朝の功績が刻まれている。この塔婆は、建長寺の歴史を伝える重要な文化財である。













